

# 2022年度 事業報告書



一般社団法人 全日本囲碁連合

## 1. 公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）への登録、及び事業協力

新型コロナウイルス感染症の影響で2023年9月23日～10月8日に1年間開催が延期となったが、中国・杭州で行われる第19回アジア競技大会（以下、杭州アジア大会）の競技として囲碁が採用され、男子団体・女子団体・男子個人の3種目が行われることになっている。日本オリンピック委員会（以下JOC）強化第一部と連携し、代表選手派遣に向けて各種手続きを進めている。

また、JOC加盟申請に必要な書類ならびに諸規程を、他のJOC加盟団体の事例を参考にしながら、スポーツ庁が策定している中央競技団体向けの「スポーツ団体ガバナンスコード」を確認し、準備を進め、2021年7月21日にJOC総務部にJOCへの加盟申請書を提出した。現在も継続審議をいただいている状況である。

## 2. 代表選手及び役員を選定及び派遣

JOC強化第一部からの内示を受け、杭州アジア大会に囲碁代表選手8名（男子5名、女子3名）を派遣することになった。

それに伴い、選手派遣に向けた代表候補選手の選考を当法人の選手選考規程ならびに、同大会の代表選手選考基準を元を実施した。

### 2.1 杭州アジア大会 派遣内定選手 賞金ランキングによる推薦

2022年1月1日～12月31日の七大棋戦賞金ランキング（女子は女流棋戦も含む）を元に、男子団体戦に出場する5名のうち4名、女子団体戦に出場する3名のうち2名が内定した。

#### 【1】男子内定選手



一力遼棋聖



芝野虎丸名人・十段



井山裕太  
本因坊・王座・碁聖



関航太郎天元

#### 【2】女子内定選手



藤沢里菜  
女流本因坊



上野愛咲美  
女流名人・女流立葵杯

### 2.2 杭州アジア大会 派遣内定選手 代表予選による選抜

囲碁ナショナルチーム（Go・碁・ジャパン）監督・コーチが推薦する男子4名、女子2名に

よる代表予選を2月27日（月）、28日（火）に日本棋院東京本院にて実施した。  
代表予選に推薦するメンバーは、2023年1月31日（火）に日本棋院東京本院にて行われた  
囲碁ナショナルチーム（Go・碁・ジャパン）監督・コーチによる会議にて決定した。

### 【1】男子予選

2023年2月27日（月）に予選出場者4名による2回戦のトーナメント戦を実施。  
2回戦のトーナメント戦を勝ち抜いた佐田篤史七段（関西棋院）が内定選手となった。  
なお、男子は正選手が出場できない場合のリザーブ選手の序列を決定するため、1回戦敗退者  
による3位決定戦も実施した。

#### ● 結果

1位：佐田篤史七段、2位：伊田篤史九段、3位：大竹優七段、4位：富士田明彦七段



佐田篤史七段

### 【2】女子予選

2023年2月28日（火）に予選出場者2名による1番勝負を実施。  
勝利した上野梨紗二段（日本棋院東京本院）が内定選手となった。

#### ● 結果

1位：上野梨紗二段、2位：牛栄子扇興杯



上野梨紗二段

## 2.3 GAISF や IMSA 主催大会・会議への選手役員派遣

国際スポーツ連盟機構（GAISF）や国際マインドスポーツ連盟（IMSA）が主催する  
国際大会ならびに会議は、新型コロナウイルス感染症の影響で軒並み中止となったため、  
代表選手ならびに役員を選定・派遣は実施しなかった。

### 3. 選手の選考基準の策定

当法人から派遣する選手の選考基準を明確化するため選手選考規程を2021年6月28日に実施した理事会で審議し承認した。この選手選考規程に基づき、杭州アジア大会に派遣する選手選考基準を策定し、2023年1月11日（水）に開催した役員会にて審議、承認を行い、この基準をもって2023年1月から2月に選手選考を実施した。

### 4. 参加国による競技ルールの取決め、調整及び国際会議出席者の推選

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、国際スポーツ連盟機構（GAISF）や国際マインドスポーツ連盟（IMSA）が主催する国際大会ならびに会議が軒並み中止となったため、競技ルールの取り決め等の打ち合わせは実施しなかった。

### 5. 選手の育成、指導、強化

当法人社員である日本棋院、関西棋院所属棋士が参加するナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」において、インターネット対局や合宿などを通じて、男女国内トップ棋士、若手棋士への強化活動を行った。

### 6. アンチドーピングへの教育と啓発

#### 6.1 ファーマシストとの連携

アンチドーピングに関する知識を持つファーマシストとの契約を行い、選手や役員がいつでも相談できる体制を整えた。またファーマシストと連携し、杭州アジア大会の出場候補者を対象に、常用薬の成分確認や使用可能薬の情報提供を実施した。

#### 6.2 JADA 提供の e ラーニング受講

JADA 提供のアンチドーピング e ラーニング「FAIR PRIDE」を、事務局職員が受講し、アンチドーピングへの理解を深めた。

#### 6.3 JADA 主催のフォーラム、教育会議への出席

JADA 主催のアンチドーピングに関するフォーラムや教育会議に事務局職員が出席し、アンチドーピングに関する情報収集と学習を実施した。

### 7. その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

#### 7.1 当法人構成団体の事業に対する協力

社員である日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会の各団体が主催する以下の大会・イベントに対して協力を行った。

- ・第32回国際アマチュア・ペア碁選手権大会（2022年12月9日～11日開催）
- ・プロ棋士ペア碁選手権2023（2023年2月11日、12日開催）

#### 7.2 定期会合の実施

日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会から選出された当法人の理事・監事が集まり、定期会合を実施した。囲碁・ペア碁における各団体の事業や国内外の課題に関して、活発な意見交換を行った。

## 8. 2022年度活動の総括

本来であれば2022年9月に行われるはずであった杭州アジア大会が新型コロナウイルス感染症の影響により、1年間延期となった。大会延期により改めて仕切り直しをして準備を進めることになったが、アンチドーピング対策に関連したファーマシストとの連携体制の整備などを行うことができた。来年度は万全の態勢で、代表選手の派遣を進めていきたい。

また、引き続き必要な諸規程の整備を行うとともに、当法人の安定的な活動のために、運営資金の調達に力を入れていく必要がある。

## 9. 来年度に向けた課題

- 9.1 安定した法人運営のための運営資金の調達
- 9.2 日本オリンピック委員会（JOC）への加盟承認の働きかけ
- 9.3 2026年愛知・名古屋アジア競技大会への囲碁・ペア碁の正式競技採用の働きかけ